

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 31 日現在

機関番号：16401

研究種目：基盤研究（c）

研究期間：2009 年度 ～ 2012 年度

課題番号：21520541

研究課題名（和文） EPA に基づく看護師・介護士受け入れにおける過疎地高知県の
課題と問題点

研究課題名（英文） The EPA program is of special relevance and interest to Kochi Prefecture, as in Kochi there are very few young people but an increasing aged population.

研究代表者 奥村 訓代 (OKUMURA KUNIYO)

高知大学・教育研究部人文社会科学系・教授

研究者番号：20221153

研究成果の概要（和文）：EPA の送り出しにおいて、過去最も採用人数が多かったインドネシア・チレボン看護大学を中心に 2 回の聞き取り調査を行った。その結果、カリキュラムの特異性や講義内容等への工夫をまとめることができた。しかし一方では、EPA に関するインドネシア国内における取り組みに対する温度差も感じた。送り出し国の事情と、受け入れ国の事情の諸問題を認識しつつ、過疎地高知県における受け入れの展望を模索することができた。

研究成果の概要（英文）：First Cirebon nursing college needs to be contacted. Because it sends a lot of applicants for EPA. Our particular interest is in any special approaches or techniques. The EPA program is of special relevance and interest to Kochi Prefecture, as in Kochi there are very few young people but an increasing aged population. In the near future, we have to facilitate such people as our neighbors and helpers. Both countries have each purposes and hopes. But anyway, we have to face both our futures in hand.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009 年度	900,000	270,000	1,170,000
2010 年度	600,000	180,000	780,000
2011 年度	500,000	150,000	650,000
2012 年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
総計	2,900,000	870,000	3,770,000

研究分野：日本語教育

科研費の分科・細目：言語学・日本語教育

キーワード：看護師・介護士候補生、送り出し・受け入れ国事情、高知の特色、異文化適応

1. 研究開始当初の背景

2008 年度から始めて受け入れが始まった。しかも当初予定のフィリピンではなくインドネシアから始まったという理由もあり、看護・医療関係者のみならず日本語教育関係者も晴天の霹靂状態で、何から始めるべきか、どこから手を付けるのか、また具体的な情報に欠けて

おり、方法論やアプローチに苦慮した。特に高知県での受け入れがなく、実際の現場を見るためには徳島まで出向く必要もあり、いろんな意味で、戸惑いは隠せなかった。

また、当時の高知県は看護師数や病床数においては日本一（10 万人当たりの数）であり、また医師数も潤沢であり、

どの病院でもEPAによる外国人看護師の必要性を感じていないのが現状で、興味や関心すら持っていなかった

しかし、一方で県は、「健康長寿県日本一構想」を打ち出しており、世界の平均寿命は日本が一番である以上、日本一ということは、「世界一の健康長寿県構想」であり、そうであれば、将来にそなえ老々看護からの脱却と将来のグローバル化の中における世界一の健康長寿県構想において、外国人の医師や看護師の必然性と意義について知事との面談も行い、必要性をアピールした。

2. 研究の目的

特にインドネシアからの看護師・介護士候補生に関しては、非漢字圏であり、イスラム教の国からの受け入れであること。またインドネシアの看護師に対する一般概念と日本の看護師の一般概念のズレの矯正。および、そもそもインドネシアには介護士に関する職種や他人にお金を払って自分の両親を介護してもらうという概念がないなど、双方の文化的違いは大きく、日本とインドネシア双方の異文化に関する問題点から解決し、EPAの目的を効果的に遂行すること。

同時に、少子高齢化の進んでいる高知県の起爆剤としての外国人看護師・介護士採用の可能性を探ることは、必要不可欠な喫緊の課題である。

また、現在の潤沢に見える看護師数や病床数も高知市と周辺の市町村では、大きく異なり山間部でのドクターヘリにおいては、その特殊性を物語っていることを周知し、将来への確かな展望が持てるよう、認識と対応を促す基礎研究が目的である。

3. 研究の方法

実地調査とEPA受け入れの現状とを擦り合わせ、高知の特殊事情を考慮しながら、その特殊性および独自性を鑑み、特に少子高齢化と限界集落問題打開、ならびに高知県の健康長寿県構想とのからみを考慮し、地域に合ったオリジナリティーのある研究を進めていく。

独自の試行としては、高知県自体の受け入れが1病院で対象となる候補生がフィリピンと限定されている。しかも受け入れ先は、閉鎖的であり、外部者とのコンタクトを拒否しており、全く研究対象にはなり得なかった。そればかりか、ボランティアによる日本語支援の申し込も受け入れてもらえず、同国人の集いにも参加させない徹底ぶりのため、やむなくNPO法人を立ち上げ独自の看護師候補

生を毎年3名受け入れることとし、研究対象としている。

4. 研究成果

(1) 異文化理解という観点から、双方の国の思惑を含めたお国事情と現状が理解できた。

(2) 特にインドネシア国内における看護大学におけるEPAに対する温度差や興味・関心の地域と組織差が把握できた。

(3) 日本語教育の視点からは、いわゆる仕事で不自由しない日本語力とともに看護国家試験合格のための日本語力に特化される傾向にあるが、基本は双方に要求される異文化適応力や多文化共生力にあることが分かった。

(4) インドネシア間の看護大学間の違いをカリキュラムから把握することができた。

(5) 同時にインドネシアと日本の看護学部との設備、対応、意識等の違いも明確にすることができた。

(6) EPAに関するインドネシア訪問調査報告は、以下の通りである。

訪問期間：2013年2月19日～24日（2回目）

訪問者：人文学部教授 奥村訓代、医学部看護学科 坂本雅代

訪問先：チレボン看護大学、ブラビジャヤ大学医学部看護学科

まとめ：

1. チレボン看護大学

1) EPA制度合格者データの推移

チレボン看護大学の受験者は、下記の表に示すように、第1期が33名、第6期が30名と多く、第5期が8名と少なくなっているが、6期までの平均受験者数は21.1名であった。合格者は第1期が33名受験し全員合格その後受験者の半数から1/3の合格者を得ており、平均11.8名であった。

2) EPA制度への関心・ニーズの変化(チレボン看護大学教員の反応)

EPA制度が2008年発足し、EPAへの関心や

ニーズは、少し下がってきているように感じるとのこと。その理由には、日本に行きたい反面、途中で帰国をした人たちの反応(良い面、悪い面の情報)が影響をしているように感じるとのこと。

① EPA で訪日中に帰国した人たちの理由は、家庭の事情(妊娠や家族の病気)やホームシックなどがある。

②日本における生活上の不自由さとして、宗教上の制約がある。ジルバブに対する違和感、およびインドネシアでは、お祈りの時間を大切にしますが、日本での仕事では自由に時間(5分ほど)の確保できない。

③国で働くことを希望する人達の訪問先は、サウジアラビア、台湾、香港の順に多い。その理由は、宗教上の共通性と給料が高いこと、また、看護師等の資格等の必要性のない職種での受け入れがなされており、容易に働くことができる。

3) 看護・介護教育を行う上での課題

①看護を行う上での文化の違いをどのように教育するのは、難しいとのこと。

例えば、お年寄りに対する習慣の違い、インドネシアでは高齢者は家庭で生活を共にするが、日本ではホームに入所をする、これは、ある一面、家族を捨てるような意識をもつことになる。やはり、文化の違いに関する教育が必要であり、近い将来インドネシアも高齢化が進み、いま日本が抱えている老老介護問題などの可能性などの説明責任も感じた。

4) EPA 制度の関する課題

EPA 制度による参加条件として、日本語能力試験5級に合格しておくことが必要となったこと。また、看護のスキルを問う内容が盛り込まれ、問題数が多く出され、受験者の戸惑いや不安に繋がっているとのことである。

2. ブラビジャヤ大学医学部看護学科の場合
対応者は、国際交流センター長並びに看護学科長、看護学科教員、学生 合計10名

初めに看護学科の教育理念や教育課程の紹介が大学教員からあった。その後、学生による日本語によるプレゼンがあった。

看護教員は、EPA 制度に関して前回同様に情報が無く、知らないとのことであった。これは、インドネシア政府の情報発信の問題とともに、教育する側のEPAに関する興味・情報収集の無さが原因であると考えられる。その中で、ブラビジャヤ大学看護学科を卒業した人が、外国で働くことを希望し、EPA 制度を活用せず、日本の看護師国家試験に合格し働いているとのことで、その様子がスライドで紹介された。そこで、EPA 制度を活用した場合の素晴らしさや、日本で働くことの意義や課題についてのコメントや質疑応答を行った。

EPAに関する総括

EPA 制度が発足し看護師並びに介護士の候補者受け入れが始り、5年余りが経過した。その間、受け入れ制度や、国家試験制度に関する変更がされつつある。

しかし、その中で受け入れ国である日本では、外国で働きたいと希望する卒業生に対する支援として、日本語能力5級以上、看護スキルに関する試験問題などが付加されたにも関わらず、日本語能力の向上と看護への基礎的な理解に向けた支援が充分とは言えないのが現状である。また今回の調査大学(チレボン・ブラビジャヤ)においては、教材のよりどころとなる量や質と情報に関し、「みんなの日本語」を使用しているような状況であり、苦慮していた。

そこで、これらの問題解決の1つの方法として、日本語・インドネシア語による「看護

日本語」共通テキストの作成を、奥村から提案し、共同研究課題とすることにした。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 5 件)

①戸田由美子・坂本雅代・奥村訓代：“インドネシア共和国と日本の医療・看護基礎教育の比較”、“比較文化研究、査読有、No104、2012、pp. 221-230

②戸田由美子・坂本雅代・奥村訓代：“インドネシア共和国 4 年制看護系大学 2 校におけるカリキュラムの比較” 比較文化研究、査読有、No104、2012、pp. 231-240

③坂本雅代：“外国人看護師導入に関する医学中央雑誌掲載論文の内容分析”、比較文化研究、査読有、No104、2012、pp. 241-250

④山下明昭：“インドネシア介護福祉士候補生を対象とする専門日本語研修の問題点” 比較文化研究、査読有、No99、2011、pp. 232 - 238

⑤奥村訓代：“異文化理解と日本語教育” 日本総合学会誌、査読有 第 9 号、2010、pp. 5-10

[学会発表] (計 6 件)

①坂本雅代・戸田由美子・奥村訓代：第 100 回看護師国家試験問題の用語表記についての検討 (2012. 2. 18. 日本比較文化学会 九州・中国四国支部研究会)

②戸田由美子・坂本雅代・奥村訓代：インドネシア 4 年制看護系大学 2 校における基礎教育カリキュラムの実態 (2011. 12. 17. 日本比較文化学会 九州・中国四国・関西 3 支部合同研究会)

③坂本雅代・戸田由美子・奥村訓代：文献でみた外国人看護師導入に関するとらえ方 (2011. 12. 17. 日本比較文化学会 九州・中国四国・関西 3 支部合同研究会)

④奥村訓代：“その後の高知における EPA 対策の現状” 日本語教育学会 (四国地区研究会). (20101106). 鳴門教育大学 (徳島)

⑤奥村訓代：“日本における現代日本語事情” 韓国日本比較文化学会 第 36 回大会. (20100424). 韓国

⑥奥村訓代：“インドネシア人介護士を取り巻く現状報告” 日本比較文化学会 (中・四国大会). (20100220). 香川大学

[図書] (計 0 件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：
〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

奥村 訓代 (OKUMURA KUNIYO)
高知大学・教育研究部人文社会科学系・教授
研究者番号：20221153

(2) 研究分担者

坂本 雅代 (SAKAMOTO MASAYO)
高知大学・教育研究部医療学系・教授
研究者番号：80290360

(3) 研究分担者

エバ ガルシア (EVA GARCIA)
高知大学・教育研究部人文社会科学系・助教
研究者番号：10294828

(4) 研究分担者

山下 明昭 (YAMASHITA TOSHIKI)
香川大学・教育学部・教授
研究者番号：40253249